

## 関東124号

### 1. 来歴

交配組合せ 九州127号×関系91（青果用）

旧系統名 谷系7



### 2. 特性の概要

いもの皮色は濃赤紫、肉色は黄。紡錘～短紡錘で揃いはやや整、条溝は無～微、裂開、皮脈は無で、外観は中～やや良、収量は早掘りではベニアズマ並、普通掘りでは、小イモ・多数着生型となり低収。蒸しいもの肉色は黄、肉質は中～やや粘質で、食味の傾向はベニアズマとは異なるものの、早掘、普通掘りともにベニアズマとほぼ同等。調理後黒変は少。つる割に強、立枯にやや強、ネコブセンチュウ・黒斑に中～やや強で、病害虫に対する大きな弱点はない。

### 3. 育成地における成績

マルチ標準栽培の収量品質調査成績（平成15年度）

品種系統名	個数	a 当り重量 (kg)	上いも対標比 (%)	上いも重歩合 (%)	株当上いも数	切干歩合 (%)	肉色	蒸しいもの肉質	蒸しいもの繊維	食味
関東124号	1300	160	61	76.4	3.3	33.8	黄	中	中	中上
標)ベニアズマ	1060	258	100	96.1	2.7	34.7	黄	粉	中	上下-中上
参)高系14号	980	132	51	84.7	2.5	31.1	淡黄白	中	中	中

## 関東125号

### 1. 来歴

関東125号(旧系統名 作系9) 交配組合せ 関系99×90SR-26  
 2000年 九州農試 畑地利用部 甘しょ育種研究室で交配  
 2001年(実生)以降 作物研究所畑作物研究部 甘しょ育種研究室で選抜、  
 育成番号 00192→関00192-235(2002)→作系9(2003)

### 2. 特性の概要

萌芽性は中。いもの皮色は淡黄白、肉色は黄白。いもは紡錘～短紡錘で揃いはやや良。条溝、裂開および皮脈は微で、外観は中。育成地における収量は、無マルチ栽培ではタムユタカより14%多収で、マルチ栽培ではタムユタカ並。育成地での蒸切干の食味は、無マルチ栽培でタムユタカに近いが、製品の肉色は黄、肉質は中で外観は良い。蒸しいもの肉色は黄である。ネコブセンチュウに強、立枯病・黒斑病にやや強で、つる割病に弱。多収を示し、ネコブセンチュウ等耐病虫性も優れることから、蒸切干加工用甘しょとして普及が見込まれる。

### 3. 配付予定地 茨城・静岡・長崎

### 4. 試験成績

#### ア. 育成地の成績

無マルチ標準栽培の収量品質調査成績

年度	品種系統名	a 個数	当り上いも 重量 (kg)	いも 対標比 (%)	上いも 重歩 (%)	株当り 上いも 個数	切干 歩合 (%)	肉色	蒸切干の 肉質 繊維	食味
平16 (生検)	関東125号 タムユタカ 泉13号	1455 1189 1154	408 359 223	114 100 62	98.1 98.0 96.8	3.2 2.6 2.6	33.0 30.3 35.0	黄 灰白 淡黄	中 やや粘 中	多 中 中 やや上 上

#### イ. 系統適応性検定試験等成績(関東125号)

配付先	栽培方法	標準品種	見込み	配付先	栽培方法	標準品種	見込み
茨城農試	無・普	タムユタカ	△	愛媛農試	マ・普	高系14号	▲
静岡農試	無・普	タムユタカ	×	長崎農試	無・普	タムユタカ	○
静岡農試	無・普	水害のため	収穫不可	鹿児島農試	マ・普	タムユタカ	●

#### ウ. 耐病虫性

品種系統名	立枯	つる割	ネコブセンチュウ 育成地	ネコブセンチュウ 現地
関東125号 タムユタカ	やや強 やや弱	弱 やや強	(強 やや弱)	強 中

#### エ. 耐病虫性(特性検定)

品種系統名	黒斑 (長崎)	ネコブセンチュウ (静岡)
関東125号	やや弱	水害のため検定不可

## ○関東127号

### 1. 来歴

- 1) 系統名 関東127号 (旧系統名：作系11)
- 2) 交配組合せ 関係112(母)×九州127号(父)
- 3) 用途 蒸切干加工用など



### 2. 特性の概要

#### 1) 主な特性

萌芽性は中。いもの皮色は赤紫、肉色は黄白。いものは紡錘で揃いはやや良。条溝、裂開および皮脈は無で、外観は中。育成地における収量は、無マルチ栽培ではタマユタカの80%程度だが、泉13号に比較すれば明らかに多収。育成地での蒸切干の食味は、無マルチ栽培では泉13号並以上でタマユタカより優れ、マルチ栽培では泉13号並と優れる。製品の肉色は黄、肉質は粘で外観は良い。蒸しいもの肉色は淡黄である。ネコブセンチュウ・つる割れ病にやや強、立枯病にやや弱～弱、黒斑病に中～強。製品の食味と外観が優れ、比較的ネコブセンチュウに強いことから、蒸切干加工用甘しょとして普及が見込まれる。

#### 2) 育成地における栽培試験成績

無マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成17年)

品種系統名	a 当り上いも			上いも 重歩合 (%)	株当た り上い も個数	切干 歩合 (%)	蒸切干の			
	個数	重量 (kg)	対標比 (%)				肉色	肉質	繊維	食味
関東127号	1209	173	79	89.5	2.7	33.6	黄	粘	やや少	上
標)タマユタカ	861	219	100	95.3	2.0	30.8	灰白	やや粘	やや少	やや上
参)泉13号	520	85	39	90.9	1.3	34.8	黄白	中	中	やや上

耐病虫性 (平成17年)

品種系統名	立枯	つる割	ネコブセンチュウ	
			育成地	現地
関東127号	弱	やや強	中	やや強
タマユタカ	やや弱	強	やや弱	やや強

## ○関東128号

### 1. 来歴

- 1) 系統名 関東128号 (旧系統名：谷系14)
- 2) 交配組合せ  
関東116号(クイックスイート)(母)×関係107(父)
- 3) 用途 青果など



### 2. 特性の概要

#### 1) 主な特性

萌芽性はやや良。いもの皮色は濃赤紫、肉色は黄～淡黄である。いもの形状は短紡錘形～紡錘形、大小は中で、揃いはそれぞれ中、やや不整である。条溝、皮脈は無、裂開は微で、外観はやや上である。上いも収量はマルチ早掘栽培、マルチ標準栽培とも、ベニアズマにくらべ多収であった。蒸しいもの肉色は黄白で、肉質は中であった。食味は、マルチ早掘栽培、無マルチ標準栽培でやや劣ったが、マルチ標準栽培で中であった。調理後黒変は中であった。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに強、立枯病にやや強、つる割れ病に中、黒斑病にやや強～強である。いもの外観が良く、多収で、病虫害抵抗性も優れることから、青果用かんしよとして有望である。

#### 2) 育成地における栽培試験成績

##### ① マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成18年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東128号	220	133	95	195	2.8	37.5	やや上	濃赤紫	短紡	黄白	中	中	中
標) ベニアズマ	165	100	95	250	1.8	35.6	中	濃赤紫	長紡～紡	淡黄	やや粉	中	やや上
比) 高系14号	135	82	93	175	2.0	31.1	中	赤紫	紡～長紡	淡黄白	中	やや多	やや上

##### ② マルチ早掘栽培の収量品質調査成績 (平成18年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東128号	71	107	83	110	1.6	38.0	中	濃赤紫	紡	黄白	中	やや多	やや下
標) ベニアズマ	67	100	88	131	1.3	34.8	中	赤紫	紡	黄	やや粉	中	やや上
比) 高系14号	71	106	89	132	1.4	32.3	中	赤紫	長紡	淡黄白	やや粘	中	中

##### ③ 病虫害抵抗性 (平成18年度)

品種・系統名	育成地					特性検定試験	
	ネコブセンチュウ		立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	ネコブセンチュウ (静岡)	黒斑病 (長崎)
場内 (谷和原)	現地 (香取)						
関東128号	強	強	やや強	中	強	強	やや強
ベニアズマ	やや弱	中	やや強	中	やや弱	中	—
高系14号	やや弱	やや弱	やや弱	中	やや強	—	やや強

## ○関東129号

### 1. 来歴

- 1) 系統名 関東129号 (旧系統名：谷系17)
- 2) 交配組合せ ベニオトメ (母) × 谷系1 (父)
- 3) 用途 青果など

### 2. 特性の概要

#### 1) 主な特性

萌芽性は良。いもの皮色は赤紫、肉色は黄～淡黄である。いもの形状は短紡錘形、大小は中で、揃いはそれぞれ中、中～やや不整である。条溝は微、皮脈と裂開は無で、外観はやや上である。上いも収量はマルチ早掘栽培、マルチ標準栽培、無マルチ標準栽培の全てで、「ベニアズマ」にくらべ多収であった。蒸しいもの肉色は黄～淡黄で、肉質は粘である。食味は、中～やや上であった。調理後黒変は中～やや多であった。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに強、立枯病に弱、つる割れ病に強、黒斑病に中～強である。ネコブセンチュウ抵抗性を有し、いもの外観が良く多収であることから、青果用かんしょとして有望である。

#### 2) 育成地における栽培試験成績

##### ① マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成19年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東129号	432	155	98	253	4.3	29.0	やや上	赤紫	短紡	黄	粘	中	やや上
標) ベニアズマ	278	100	97	296	2.4	36.6	中	濃赤紫	長紡～紡	淡黄	粉	やや少	上
比) 高系14号	320	115	99	294	2.8	32.8	中	赤紫	紡	淡黄白	中	中	中

##### ② マルチ早掘栽培の収量品質調査成績 (平成19年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東129号	145	121	94	179	2.1	29.8	やや上	赤紫	短紡～紡	淡黄	粘	やや多	中
標) ベニアズマ	120	100	95	169	2.0	35.3	中	赤紫	紡	淡黄	粉	中	上
比) 高系14号	166	138	96	176	2.4	32.0	やや上	赤紫	長紡	淡黄白	やや粘	中	中

##### ③ 病虫害抵抗性 (平成19年度)

品種・系統名	育成地					特性検定試験	
	ネコブセンチュウ		立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	ネコブセンチュウ (静岡)	黒斑病 (長崎)
場内 (谷和原)	現地 (香取)						
関東129号	強	強	弱	強	中	強	強
ベニアズマ	やや弱	中	やや強	やや弱	中	やや強	—
高系14号	弱	やや弱	弱	中	中	—	中

## ○関東130号

### 1. 来歴

- 1) 系統名 関東130号 (旧系統名: 谷系18)
- 2) 交配組合せ 関東118号 (母) × ベにまさり (父)
- 3) 用途 青果など

### 2. 特性の概要

#### 1) 主な特性

萌芽性はやや良。いもの皮色は濃赤紫、肉色は黄～淡黄である。いもの形状は短紡錘形、大小は中で、揃いはそれぞれ中、やや不整である。条溝、裂開は微、皮脈は無で、外観はやや上である。上いも収量はマルチ早掘栽培、マルチ標準栽培、無マルチ栽培とも、「ベニアズマ」にくらべ低収であった。蒸しいもの肉色は淡黄で、肉質は中～やや粉であった。食味は、中～やや上であった。調理後黒変は中～やや多であった。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウにやや強～強、立枯病に弱、つる割れ病にやや弱、黒斑病にやや強～強である。ネコブセンチュウに抵抗性を持ち、いもの外観が良く、配布先において多収であることから、青果用かんしょとして有望である。

#### 2) 育成地における栽培試験成績

##### ① マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成19年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東130号	228	82	95	206	2.8	30.5	やや上	濃赤紫	短紡	淡黄	やや粉	中	中
標) ベニアズマ	278	100	97	296	2.4	36.6	中	濃赤紫	長紡～紡	淡黄	粉	やや少	上
比) 高系14号	320	115	99	294	2.8	32.8	中	赤紫	紡	淡黄白	中	中	中

##### ② マルチ早掘栽培の収量品質調査成績 (平成19年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東130号	99	83	86	138	1.8	30.6	やや上	濃赤紫	紡	淡黄	やや粉	中	やや上
標) ベニアズマ	120	100	95	169	2.0	35.3	中	赤紫	紡	淡黄	粉	中	上
比) 高系14号	166	138	96	176	2.4	32.0	やや上	赤紫	長紡	淡黄白	やや粘	中	中

##### ③ 病虫害抵抗性 (平成19年度)

品種・系統名	育成地				特性検定試験		
	ネコブセンチュウ		立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	ネコブセンチュウ (静岡)	黒斑病 (長崎)
場内 (谷和原)	現地 (香取)						
関東130号	やや強	強	弱	やや弱	やや強	強	強
ベニアズマ	やや弱	中	やや強	やや弱	中	やや強	—
高系14号	弱	やや弱	弱	中	中	—	中

## ○関東131号

### 1. 来歴

- 1) 系統名 関東131号 (旧系統名：作系17)
- 2) 交配組合せ 関東120号 (母) × 関東116号 (クイックスイート) (父)
- 3) 用途 蒸切干加工など

### 2. 特性の概要

#### 1) 主な特性

萌芽性はやや良。いもの皮色は赤紫、肉色は淡黄である。いもの形状は紡錘形、大小はやや大で、揃いはそれぞれやや整、中である。条溝および皮脈は無、裂開は微で、外観はやや上である。上いも収量は無マルチ、マルチともにタマユタカ並みで、多収である。蒸切干の肉色は淡黄で、肉質はやや粘である。蒸切干の食味はやや上でタマユタカと同等であり、中白の発生は無である。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに強、つる割れ病、黒斑病にやや強であるが、立枯病には弱である。いも収量および蒸切干の食味が比較的優れ、蒸切干の中白発生が無く、蒸切干加工用かんしょとして有望である。

#### 2) 育成地における栽培試験成績

##### ① 無マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成19年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸切干				
							外観	皮色	形状	中白	肉色	肉質	繊維	食味
関東131号	293	100	97	326	2.2	30.9	やや上	赤紫	紡～短紡	無	淡黄	やや粘	中	やや上
標) タマユタカ	294	100	98	314	2.1	30.5	中	帯紅/淡黄白	紡～短紡	中	灰白	中	やや少	やや上
比) 泉13号	101	34	94	181	1.4	35.4	やや下	淡黄白	紡～長紡	微	黄白	中	中	上

##### ② マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成19年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸切干				
							外観	皮色	形状	中白	肉色	肉質	繊維	食味
関東131号	363	102	98	327	2.9	32.1	やや上	赤紫	紡	無	黄白	中～やや粘	やや少	やや上
標) タマユタカ	356	100	99	310	2.9	29.5	中	帯紅/淡黄白	紡～短紡	やや少	灰白	中	やや少	やや上
比) 泉13号	91	26	92	149	1.6	35.4	やや下	淡黄白	紡～長紡	少	黄白	中	中	やや上～上

##### ③ 病虫害抵抗性 (平成19年度)

品種・系統名	育成地					特性検定試験	
	ネコブセンチュウ		立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	ネコブセンチュウ (静岡)	黒斑病 (長崎)
場内 (谷和原)	現地 (香取)						
関東131号	強	強	弱	やや強	やや強	強	やや強
タマユタカ	中	やや強	やや弱	中	やや強	—	—
泉13号	やや強	強	弱	やや弱	やや強	—	—

○関東132号 (平成21年度新規)

1. 来歴

- 1) 系統名 関東132号 (旧系統名：谷系21)
- 2) 交配組合せ 関東123号 (母) × ベニオトメ (父)
- 3) 用途 青果など

2. 特性の概要

1) 主な特性

萌芽性は中。いもの皮色は赤紫、肉色は淡黄である。いもの形状は紡錘形、大小はやや大で、揃いは両者ともやや整である。条溝と皮脈は無、裂開は微で、外観は上である。上いも重はマルチ早掘栽培、マルチ標準栽培、無マルチ標準栽培の全てにおいて、「ベニアズマ」に比べ180~210%多収である。蒸しいもの肉色は黄白~淡黄で、肉質は粘、調理後黒変はやや多、食味は、中~やや上である。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに中~強、立枯病に中、つる割れ病に強、黒斑病に中~強である。いもの外観が良く、極多収であることから、青果用かんしょとして有望である。

2) 育成地における栽培試験成績

① マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成20年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東132号	537	182	97	322	.2	30.9	やや上	赤紫	紡	淡黄	粘	中	中
標)ベニアズマ	294	100	99	279	.7	34.7	やや下	濃赤紫	紡	黄	粉	やや少	上
比)高系14号	271	92	98	213	.3	30.9	やや下	赤紫	紡	黄白	中	少	中

② マルチ早掘栽培の収量品質調査成績 (平成20年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸しいも			
							外観	皮色	形状	肉色	肉質	繊維	食味
関東132号	332	201	97	195	4.3	29.0	やや上	赤紫	長紡	黄白	粘	やや多	やや上
標)ベニアズマ	166	100	96	148	2.8	36.1	中	赤紫	紡	淡黄	粉	中	上
比)高系14号	199	120	97	187	2.7	32.2	中	赤紫	紡	黄白	中	やや少	やや上

③ 病虫害抵抗性 (平成20年度)

品種・系統名	育成地				特性検定試験		
	ネコブセンチュウ 場内 (谷和原)	ネコブセンチュウ 現耶 (香取)	立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	ネコブセンチュウ (静岡)	黒斑病 (長崎)
関東132号	中	強	やや強	強	やや強	強	中
ベニアズマ	やや強	やや弱	強	やや弱	中	弱	—
高系14号	中	弱	やや弱	やや弱	中	—	弱



○関東133号 (平成21年度新規)

1. 来歴

- 1) 系統名 関東133号 (旧系統名：作系18)
- 2) 交配組合せ 関東120号 (母) × クイックスweet (父)
- 3) 用途 蒸切干加工など

2. 特性の概要

1) 主な特性

萌芽性はやや良。いもの皮色は赤紫、肉色は淡黄である。いもの形状は紡錘形、大小はやや大で、揃いは両者とも中である。条溝および皮脈は無、裂開は無で、外観は中である。上いも収量は無マルチ、マルチともにタマユタカに近く、やや多収である。蒸切干の肉色は黄で、肉質はやや粘である。蒸切干の食味はやや上でタマユタカと同等であり、中白の発生は微である。病虫害抵抗性は、ネコブセンチュウに強、つる割れ病にやや強、立枯病に中、黒斑病にやや弱である。いも収量および蒸切干の食味が比較的優れ、蒸切干の中白発生が少なく、蒸切干加工用かんしょとして有望である。

2) 育成地における栽培試験成績

① 無マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成20年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸切干				
							外観	皮色	形状	中白	肉色	肉質	繊維	食味
関東133号	373	91	97	244	3.4	30.8	中	赤紫	紡～短紡	微	黄	やや粘	中	やや上
標)タマユタカ	410	100	99	405	2.3	30.8	中	帯紅/淡黄白	紡～短紡	やや少	灰白	やや粘～中	やや少	やや上
比)泉13号	145	35	96	158	2.1	34.5	中	淡黄白	紡～長紡	無	黄白	やや粘～中	中	上

② マルチ標準栽培の収量品質調査成績 (平成20年度)

品種・系統名	上いも重 (kg/a)	対標準比 (%)	上いも率 (%)	上いも1個重 (g)	1株上いも数	切干歩合 (%)	いも			蒸切干				
							外観	皮色	形状	中白	肉色	肉質	繊維	食味
関東133号	508	97	98	312	4.2	31.4	中	赤紫	紡	無	黄	やや粘	中	やや上
標)タマユタカ	521	100	99	460	2.9	31.2	中	帯紅/淡黄白	紡～短紡	少	灰白	中	やや少	やや上
比)泉13号	162	31	93	160	2.8	34.9	やや下	淡黄白	紡～長紡	微	黄白	中	中	やや上～上

③ 病虫害抵抗性 (平成20年度)

品種・系統名	育成地					特性検定試験	
	ネコブセンチュウ 堀内 (谷和原)	ネコブセンチュウ 稲穂 (香取)	立枯病 (香取)	つる割れ病	黒斑病	ネコブセンチュウ (静岡)	黒斑病 (長崎)
関東133号	強	強	中	やや強	やや弱	やや強	弱
タマユタカ	中	中	中	中	強	—	—
泉13号	やや強	中	弱	弱	—	—	—